

コロナ禍のアルバイトブランド 1 位はダイソー！コンビニ人気も復活 【2020 年アルバイト採用ブランド力調査】

当社を母体とする多様な働き方の調査研究機関「ツナグ働き方研究所(拠点：東京都千代田区／ツナグ働き方研究所 所長：平賀 充記、以下ツナグ働き方研究所)」は、全国のアルバイト求職者 16～69 歳 1,000 人を対象に、【2020 年アルバイト採用ブランド力調査】（※ 1）を実施しました。アルバイトを探す求職者の意識は、やはりコロナ禍によって変化し、採用ブランド力にも大きく影響を与えていました。その調査結果をとりまとめましたのでご報告いたします。

■調査結果 トピックス

1. コロナ禍のアルバイト採用ブランドランキング 1 位は 100 円均一のダイソー
2. 感染不安から「近場」「短時間」志向が高まる中、コンビニ業界のブランド力も復活
3. 同じ小売業でもスーパーやドラッグストア人気は低下。買い占め報道の残像が影響か

2020 年アルバイト採用ブランド力ランキング

2020 RANKING	前年 比較	業界	2019 RANKING
1	↑	ダイソー	2
2	↑	無印良品	4
3	↑	東京ディズニーリゾート	7
4	↑	セブン-イレブン	11
5	↓	イオン	3
6	↓	ユニクロ	5
7	↓	セリア	1
8	↑	ローソン	14
9	↑	ファミリーマート	17
10	→	マクドナルド	10

1. コロナ禍のアルバイト採用ブランドランキング 1 位は 100 円均一のダイソー

コロナ禍におけるアルバイト探しのキーワードは、「安全」「近場」「短時間」であることが分かりました（※ 2）。こうした就業意識がアルバイトの採用ブランドランキングにもダイレクトに反映されています。

【2020 年のアルバイト採用ブランドランキング】1 位はダイソーでした。ここ数年、アルバイトの職場として「100 円均一業界」人気が高まりを見せており、昨年のランキングでは 1 位セリア、2 位ダイソーと「100 円均一業界」で 1 位 2 位を独占したほどです。人気の理由は、価格がほぼ 100 円で統一されていることから、自分でも働きやすそうという圧倒的な敷居の低さにありました。

そうした業界の特徴を追い風としつつも、今年、ダイソーがセリアをかわして1位になったのは、コロナ禍によって「通いやすさ」への重視度が高まったことが大きく影響しています。ダイソー3493店：セリア1679店（2020年2月時点）と店舗数に倍以上の差があり、“安全に通える身近な職場”としてダイソーに軍配が上がったのでしょう。また“ダイソーにないものはない”と言わしめる品揃えの豊富さもブランド価値につながっています。

2. 感染不安から「近場」「短時間」志向が高まる中、コンビニ業界のブランド力も復活

昨年トップ10圏内から姿を消した「コンビニ業界」でしたが、4位セブン-イレブン、8位ローソン、9位ファミリーマートと3大ブランドが揃ってトップ10内に復活したのも今年の特徴です。

ここ数年、コンビニ業界はバイトテロやコンビニ強盗といった環境悪化に加え、キャッシュレス化推進によるレジ業務の複雑化など、ネガティブイメージが高まっていました。今年の調査でも、他の小売業と比較した場合、「安全」のスコアは相対的に低い傾向にあります。しかし「近場」「短時間」というコロナ禍によって重視度が高まった項目で高スコアをマークしていることが、ブランド力復活を後押ししました。

3大ブランド内での比較でいくと、セブン-イレブン一強から、3つ巴の時代に入ってきたような印象を持ちます。これまでは、アルバイトを探す際に重視する項目（＝魅力因子）のスコアにおいて、全ての項目でセブン-イレブンがトップでしたが、項目によってスコアの逆転が見られました。

3. 同じ小売業でもスーパーやドラッグストア人気は低下。買い占め報道の残像が影響か

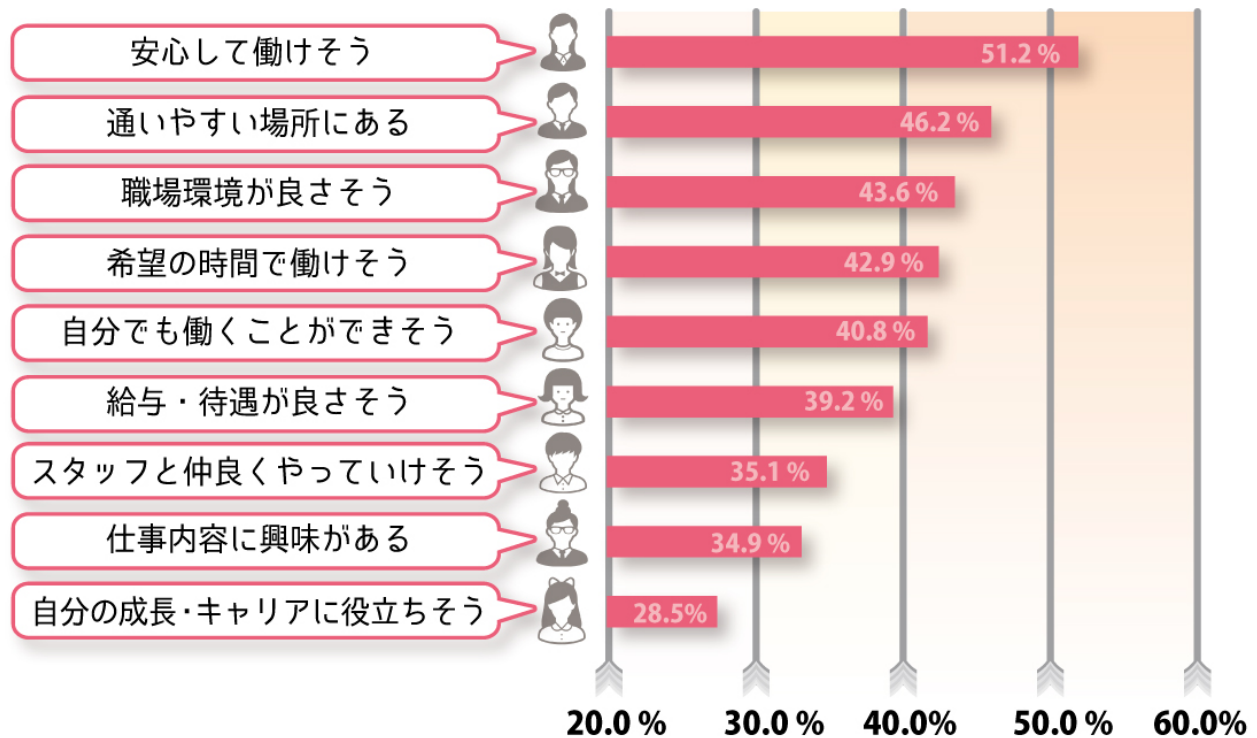
「100円均一業界」「コンビニ業界」が身近な職場として上位にランクインしたのに対し、「生活雑貨業界」は、圧倒的な「安全感」「職場環境のよさ」が評価されています。2位の無印良品は、昨年の4位からさらに順位を上げました。ここ数年、ずっと上位にランクインするブランドですが、コロナ禍での最重視項目である「安全」のスコアが1位で、“安心して働ける職場イメージ”は群を抜いています。トップ10には届かなかったものの、同業界のニトリも安全スコアが高く出ています。

一方で、明暗を分けたのが「スーパー」「ドラッグストア」。生活維持に不可欠なエッセンシャルワーカーとしてリスペクトされる業界である反面、いざ働くとなると躊躇するとの声が多数。『忙しすぎて休めないのでは』『レジなど密になりやすくて不安』『殺気だったお客さんからのクレームが怖い』など、緊急事態宣言時の買い占め報道映像が生々しい記憶に残っているようです。

<図1> アルバイト選択重視項目と9つの魅力因子

順位	Point 因子 	重視度 	順位
1	【場所】 通いやすい場所にある	83.5 %	→
2	【安全】 安心して働けそう	83.0 %	→
3	【仕事 / 現実】 自分でも働くことができそう	82.9 %	→
4	【時間】 希望の時間で働けそう	82.7 %	↑
5	【環境】 職場環境が良さそう	81.2 %	↓
6	【給与】 給与・待遇が良さそう	78.3 %	↓
7	【仲間】 スタッフと仲良くやっていけそう	75.0 %	→
8	【仕事 / 理想】 仕事内容に興味がある	72.0 %	→
9	【成長】 自分の成長・キャリアに役立ちそう	53.5 %	→

<図2> コロナ禍によりアルバイト選択で重視するようになった項目



※1) 【アルバイト採用ブランド力調査（ブランド力ランキング）】とは

・ツナグ働き方研究所では、毎年【アルバイト採用ブランド力調査（ブランド力ランキング）】を調査発表しています。単なる人気ランキングでは認知度や表層的イメージに左右されやすいことから、下記のアプローチを用いて「採用力」の高さによってランキングを作成しています。

・アルバイトを選択する際に重視する9因子を抽出し、その重視度において項目の採用力偏差値を算出（図1）。アルバイト勤務先として代表的な50ブランドにおいて、その各因子についての評価を調査。評価ポイントに採用力偏差値の加重値を掛け合わせ、その合計値によってランキングを作成。

※2) コロナ禍におけるアルバイト探しの重視項目（図2）

冒頭でも述べた通り、求職者がアルバイトを探す際に重視する項目の中で、新型コロナウイルス感染問題によって重視度が高まったのは、「安全」「場所＝近場」「時間＝短時間勤務」という項目でした。最も重視度が高まったのは、やはり職場の安全。次いで重視度が高まったのが「場所」。職場内の安全だけでなく、「職場外の安全」という観点から近場での勤務を重視する傾向が現れています。インタビューでも繁華街など勤務場所に対する不安や通勤のリスクを気にする声が多数あがっていました。また感染への不安から働きすぎを警戒し「短時間勤務」志向が高まっているようです。「長時間のシフトは怖い」「あまり長く働きたくない」という声が多く聞かれました。

■調査概要

調査対象：

業種を問わずパート・アルバイトとして求職経験が2年以内にある求職者または現就業者
全国の16～69歳の男女 1,000名（男性：500名・女性：500名）

調査期間：2020年6月24日～7月2日

調査手法：インターネット調査

有効回答：1000名

■ツナグ働き方研究所とは

アルバイト・パート専門の人材コンサルティング会社、株式会社ツナググループ・ホールディングスを母体とする「多様な働き方」の調査研究機関。少子高齢化による労働力人口の構造変化やIT技術の進化、グローバル化による産業構造変化が加速する中、ますます広がりを見せるアルバイト・パートを中心とした多様な労働市場において、「個人の価値観が尊重される働き方」「現場の人材が最も輝く働き方」「21世紀をリードする多様な働き方」をテーマに、調査・研究・開発に取り組む。所長である平賀充記(ひらがあつのり)は、リクルートフロムエー(現リクルートジョブズ)にて、FromA、タウンワーク、とらばーゆ、ガテン、はたらいくなど、リクルートの主要求人メディア編集長を歴任。

特に30年以上にわたり観察を続けてきた「職場の若者」には造詣が深く、「若者の働き方研究の第一人者」として活動している。近著に「パート・アルバイトの応募が殺到！神採用メソッド」「なぜ最近の若者は突然辞めるのか」がある。

■株式会社ツナググループ・ホールディングス 会社概要

- 社名：株式会社ツナググループ・ホールディングス
- 住所：〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-1-3 東京宝塚ビル 7F
- 代表者：代表取締役社長 米田 光宏
- 資本金：517,071 千円
- 従業員数：638 名/グループ合計（2020 年 3 月 31 日現在）※正社員・契約社員
- URL：<https://tghd.co.jp>

【本件に関するお問合せ先】

株式会社ツナググループ・ホールディングス 広報担当：川田（かわだ）

Mail：inq@tghd.co.jp TEL：03-3501-0279

※新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、お電話の受付は11時～17時の間での対応とさせていただきます。